

来客は、はるか遠い国から岡山を目指してやって来た。開業医の傍らAMD A代表菅波茂さん(西)は

三月二十三日。アフリカ南部のザンビアの政府高官ら四人が訪れたのは、岡山市街地北西部、岡市楯津にある「アジア医師連絡協議会」(AMD A)の本部。

国際協力事業団(JICA)に協力しAMD Aは今年後、五年にわたりザンビアで、地域の保健医療システムづくりや栄養改善などのプロジェクトを政府開発援助(ODA)として実施する。それを実行した表敬訪問だ。

ODAは発展途上国に対する政府ベースの援助。これに対しNGO(非政府組織)は、営利を目的としない貢献・協力をを行う民間団体のことをいう。AMD Aはその一つである。ザンビア援助は、ODAの大規模なプロジェクトにNGOが主体的に参画する初めてのケース。「ODAの新たな在り方を探るモデルとなる。岡山の人的、社会的資源を生かしたい」。

菅波さんが提唱した「国際貢献トピア岡山構想」のキャッチフレーズだ。「トピアは「ユートピア」(理想郷)から名付けた。

世界保健機関(WHO)など国連の人道援助関係機関がそろった「ジュネーブ」これに対し岡山を、世界各国で人道援助などに活躍するNGOのネットワークの中心に据えて民間貢献の拠点とし、地域おこしにつなげていくこと。

トピア

東の岡山

「国際貢献」と「地域おこし」。一見つながりなさそうだが、この取り合わせの意義を菅波さんは打ち出した。

発展途上国などへの援助に必要な保健や医療、水道や農業技術、教育などは日本では地域コミュニティや自治体こそが総合的に取り組むことができ援助効果も上がる、との発想が原点だった。そして、壮大な「くまのり」へと思いが広がる。

「西のジュネーブ、東の動がそれを証明した」

菅波さんが提唱した「国際貢献トピア岡山構想」のキャッチフレーズだ。「トピアは「ユートピア」(理想郷)から名付けた。

世界保健機関(WHO)など国連の人道援助関係機関がそろった「ジュネーブ」これに対し岡山を、世界各国で人道援助などに活躍するNGOのネットワークの中心に据えて民間貢献の拠点とし、地域おこしにつなげていくこと。

地方発の国際貢献

「その底流に岡山県の人々の文化の特長がある」と菅波さん。医療・福祉、教育、宗教分野は、岡山は歴史と伝統がある。これらは人道援助に不可欠であり、地域特性の活用につながると分析する。

「阪神大震災の際に岡山県民が見せた自覚ましい救援活動がそれを証明した」

「西のジュネーブ、東の動がそれを証明した」

菅波さんは広島県安芸郡神辺町出身。歴史好きで、高校二年の時に見た太平洋戦争の写真を集めて衝撃を受けた。ニューギニア戦線で海岸に半分顔をうずめて死んだ兵士の写真。

「同じ年、この日本人が遠くでなぜこんな姿に...言葉が失うと同時に平和への思いや異国への関心が高まった。岡山大医学部に入学し、同大大学院、岡山市内の病院勤務医などを経る中で、アジア各国への放浪の旅や農村での医療協力を続けた。多様な文化を持ったアジアへの関心は深まるばかり。アジアに興味を持つ日本の医学生らとの連携を強めていった。

昭和五十四年、タイのカンボジア難民キャンプで大きな転機が訪れる。医学生二人とともに医療支援に赴いたが、既に欧米のNGOなどが活躍。何の準備もない菅波さんらに入り込む余地はなかった。「善意だけでは通用しない。直面した国際舞台の現実だ。直視した国際舞台の現実だ。直視した国際舞台の現実だ。

「政府との役割分担の中で、地方もリーダーシップを持って国際政策を打ち出す時代だ」と菅波さん。岡山から世界へ向けた発信で、地方自治体にも多チャある。(次回から社会面に掲載)

「国際政策」の必要性も指し、地方自治体にも多チャある。(次回から社会面に掲載)

ODAの支出額が約百三十億が(平成六年)で四年連続世界一の「援助天国」日本。しかし、その割には、評価は



ザンビアの政府高官らと援助計画を話し合う菅波さん(左)。「地方からの国際政策」の最前線を担っている=3月23日、岡山市・AMD A本部

「くまのり」熱き人々